

2020年度 事業報告書

[2020年6月～2021年5月]



特定非営利活動法人
地域の未来・志援センター

2021年 7月22日

目 次

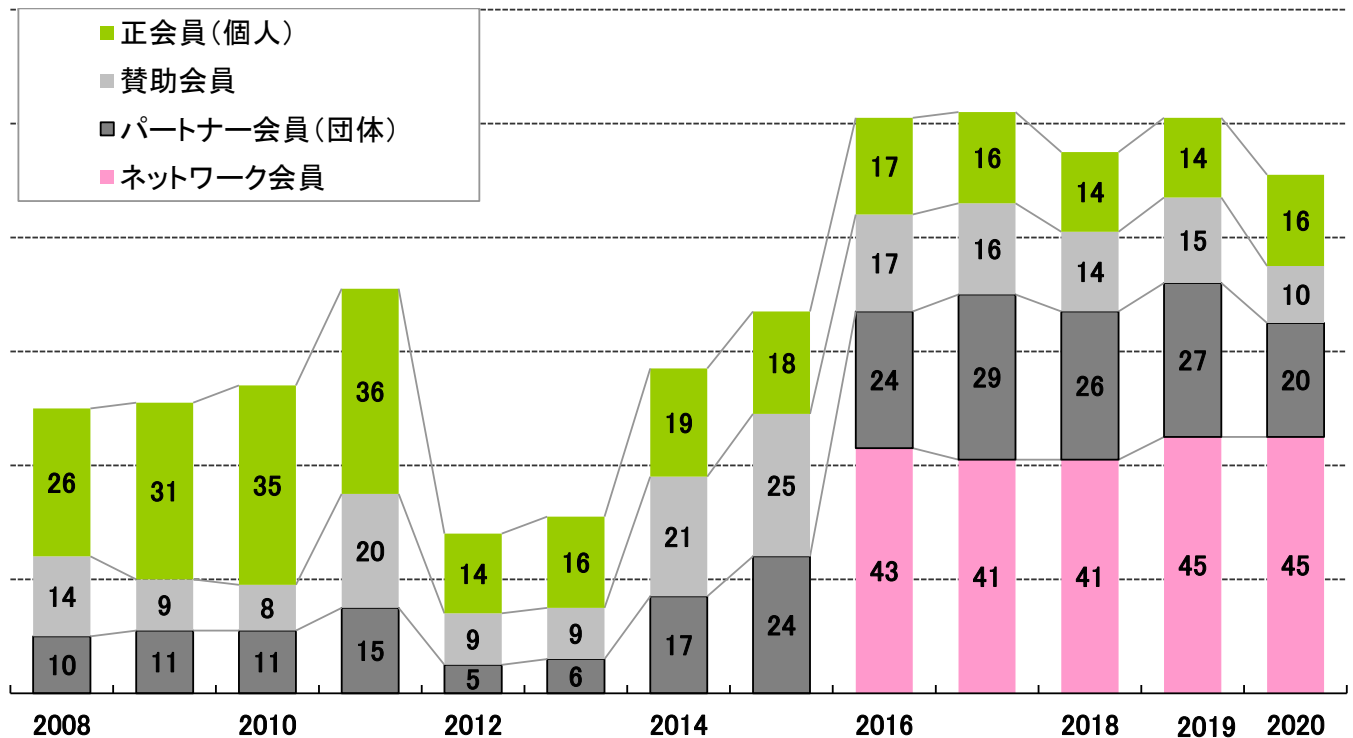
2020年度事業報告

1. 会員数の推移	4
2. 各事業実施報告	5
人材育成	
1 SDGs人材育成『伊勢・三河湾流域思考×未来創造プログラム』	6
2 揖斐川流域 山間地の地域循環共生圏なりわい調査プロジェクト	8
持続可能な社会のためのネットワーク構築	
3 東海市民社会ネットワーク 幹事団体として参画 気候危機勉強会	9
4 NPOの資金調達まるわかりセミナー ver.2	10
5 中部流域連携ネットワーク構築支援（川のネットワーク支援）	13
6 海のネットワーク支援	17
7 山のネットワーク支援	19
8 センタースタッフスキルアップ支援	20
行政・企業へのアプローチ	
9 自団体・関連団体の収益強化	21
中間支援活動の見える化	
10 広報活動と市民社会の基盤強化	23
なりわい塾事業	
11 豊森なりわい塾サポートと新規事業の種まき	24
3. 総会および理事会・運営会議の開催	25
1. 第16回通常総会	25
2. 2020年度理事会	25

1. 会員数の推移

会 員 数 : 101 (2021年5月現在)

正 会 員 16名 賛助会員 10名
 パートナー会員 20団体 ネットワーク会員 3組織・45団体



◆協力・連携団体 ～会員制度だけではない連携のカタチ～ (連携団体はP.27参照)

現在、市民活動全体が再編期に入っており、会員制度も含めた従来のNPOの運営方法が時代に合わなくなっていることを昨年の報告書で述べた。そのような認識のもと、団体のミッション「持続可能な地域のデザインを描く」を共有する新たな仲間づくりを目指し、2020年度前半、エコネット近畿、きたネットと協議を重ねた。その結果、コロナ禍・アフターコロナの時代に対応する環境中間支援組織へと脱皮すべく、エコネット近畿とタッグを組むことになった。オンラインが日常となった利点を生かし、関東、中部～西日本と広範囲での情報共有を進め、持続可能な社会を目指す福祉・教育・子育て・多文化共生等の多様な仲間づくりを開始している。

◆15年続いたセブニーイレブン記念財団とのパートナーシップ終結へ

①2019年後半から深まったきたネット、エコネット近畿との連携

～3団体で、セブニーイレブン記念財団との協働事業提案を実施～

2019年の助成金セミナーにおいて、きたネットとエコネット近畿、当団体は、初めて本格的に連携して事業を行った。それぞれがこれまで積み上げてきたノウハウを持ち寄り、共通の企画を立て、パンフレット製作や登壇者依頼、広報などを一体となって行った。その効果は大きく、例えば助成財団側からは「3地域でまとめて広報できるなら協賛金もOK」という声をいただき、北海道・中部・関西という『広域』で動ける価値を知ることができた。また、各事務局の負担も軽減され、「なぜ、これまで一緒にやらなかったのか?」と、今更ながら3団体が力を合わせることの意義を実感した。

これがきっかけで、曲がり角にあると言われて久しい中間支援活動の見直しも、3団体協働で進めていけば可能かもしれない、との希望が生まれた。そこで、12月に開催予定の「中間支援組織合同会議」へ向け、まずはスポンサーであり、パートナーである(はずの)セブニーイレブン記念財団に、時代にふさわしい中間支援活動について協議することを呼び掛けた。そして年明け2020年1月8、9日と1カ月ずれ込んだ「中間支援組織合同会議」では、まずは、3団体からSDGsの要となるゴール17・パートナーシップにおいて中間支援が重要な役割を果たすこと、その役割を果たすための資源は、これまでの約15年の活動で蓄積されており、それを活かした事業展開が可能であることをプレゼンした。

②2020年1月、中間支援合同会議で記念財団に対してプレゼンテーション 6月、4者での新しい協働事業を提案。記念財団の考えは変わらず

合同会議2日目、プレゼンに基づき記念財団と3団体間の今後のパートナーシップについて話し合い、4者の新しい協働事業について、3団体共同で企画案を出すことになった。しかし一方で、記念財団からは、これまで通りの中間支援パートナーシップ事業は終了し、3団体への助成の在り方を変更すると告げられ、2020年度から3年間は移行期間として、公募助成の「自立事業助成」と同じ扱いとなり（人件費は2人分であるが）、2023年3月にはそれも終了する、という話がなされた。3団体は、合同会議での約束通り、4者協働の新事業提案を6月13日に財団事務局、理事長、評議委員会長に送付したが、その提案に対して記念財団側からの正式な回答はなく、自立のための3年間移行期間が始まった。

③コロナ禍発生、社会の変革は待ったなしに！『誰ひとり取り残さない社会』を目指して 市民社会を活性化させるオルタナティブの共有をすすめるのが中間支援の役割と認識

このようなやりとりの渦中、コロナ禍が発生。私たちの社会が、災害時には社会的弱者がさらに追い詰められ、エッセンシャルワーカー（暮らしを支える人々）を大切にしない社会であることが改めて痛感された。金銭や便利さだけを追い求めないオルタナティブな社会を目指す環境中間支援の役割は大きいとの認識を強め、3年間の移行期間を有効に生かし、新たな活動の可能性模索を開始している。

2. 各事業実施報告

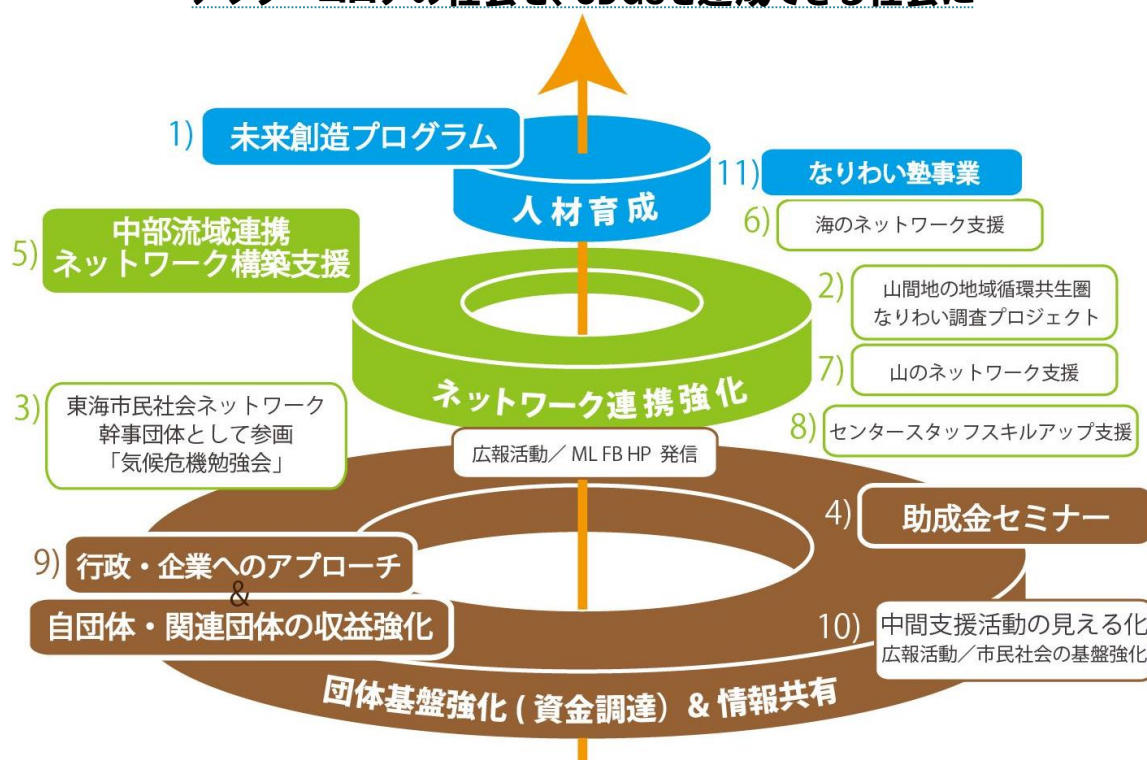
事業期間と基本方針<< 2020年度 >>

事業期間

2020年6月1日～2021年5月31日

事業体系

アフターコロナの社会を、SDGsを達成できる社会に



2. 各事業実施報告

人材育成

1. SDGs人材育成『伊勢・三河湾流域思考×未来創造プログラム』

■期間：2020年4月～2021年3月

■協力団体：22世紀奈佐の浜プロジェクト、中部流域連携ネットワーク、愛知・川の会、泉京・垂井

■学生部会：15名

◆開催概要

地域の環境団体の担い手不足はとても深刻であり、積み重ねてきた知見や事業の継承が難しい。また、変化の激しい時代の中、若者にとっても自らの未来につながる気候変動等の変化を知る機会が少ないという実状がある。中部流域連携ネットワーク構築に参画しながら、『防災・減災』と『自然と共生するなりわいづくり』の新しい潮流を学ぶプログラムを大学生に対し提供し、若者が地域の諸課題を現場で学び、自分の将来と関連づけて考え、行動することを後押しする。

コロナ禍により、学生が参加することになっていた22世紀奈佐の浜プロジェクトの答志島清掃活動や、「いい川・いい川づくりワークショップin中部」の開催、中部流域連携ネットワークの矢作川流域フィールドワーク等がすべて中止となったため、8月に学生自身が代替計画を考える「ロジックモデルを作って自分たちの計画を立ててみよう」ワークショップをサポート。そこで、22世紀奈佐の浜プロジェクトのキーマン取材、中部流域連携ネットワークが開催したオンラインイベント『ゆく川 くる川 川談義』の広報映像やYouTubeのアーカイブ映像制作、出前講座教材づくりを行う計画案を作成。その活動をサポートした。また、10月10日開催の「きれいな水といのちを守る全国オンラインシンポジウム」で、学生が伊勢・三河湾流域の漂着ごみ問題を報告する機会をアテンドした。



学生が参加した『ゆく川 くる川 川談義』で運営の様子



きれいな水といのちを守る全国オンラインシンポジウムで発表の様子



学生が作成した22世紀の奈佐の浜プロジェクト・学生部会の広報動画



投入 input	活動 activity	結果 output	成果(初期) outcome	成果(中期) outcome	成果(最終) impact	事業目的 purpose
宿題:アプ ローチでき る島民調 べておく SNSに強い友人を 仲間にする	●2‘ のために、 島の人へ のPJ説明 を試みる :人数とい うよりは、 キーマンを 大事に。 * 軽トラ運 転手さんと PJのことを 話す =テクニッ クが必要 グループ 活動のとき、 PJに勧誘 する (人数少な いので)S NSでその 場で友達 になってし まう 参加者に、 散策の際、 SNSに投 稿してもら う 島民インタ ビューもし てもらう	島民何 人？ SNSでき た人何 人？	(10月11日の 成果) 参加した 主に学生 に達成感 を持ってもら う 楽しいと感 じてもらう (アンケートを 実施したとき、 満足度など簡 単な項目を作 り、その満 足度が7割を 超えていたら 良い!←参加 者全てが) 学生参加 者のうちP Jに参加 or LINE,Twitt er登録 SNSの効 果的な活 用法を見 極めて、新 規参加者 の取り込 みを図る =実証実 験 島民(これ までかか わった方) がイベント 参加	(今年度末) プロジェクトに人員を 引き入れる(1. 学 生、2. 島 民、3. 社 会人) SNSを通 じてPJの 認知度を 高める(何 を持って高ま ると言えるの かな?) 来年参加 してくれる 人を確実に 確保(人 数の規模 が小さい ので、濃い おつきあ いを?) 参加者が 次に来た 時に答志 島のことを 学生部会 メンバーと 一緒に考 える・語れ るように	(3年後くらい) ●1 新規の人が 増える海岸 清掃参加 経験者が 今の3倍以 上→意図 は、環境に 関心のな かった人 の入り口 ●2 プロジェクトに積極的 に参加す る人を増 やす ●2‘ プロジェクトに島民の 方も積極 的に参加 するように →地元とコ ラボはPJ の価値あ がる	(10~20年 先?) 流れ着くゴ ミが減る * 関心層 が増える だけでなく、 減らすた めに動く人 が要る (プロジェク トでうたっ ているのは10 0年先) 伊勢湾の 漂着ゴミを なくす (もっと先) 環境問題 の解決・改 善

「ロジックモデルを作って自分たちの計画を立ててみよう」
ワークショップの成果物

【収支】

収入 : 448,767円
支出 : 467,601円

【成 果】

コロナ禍で予定通り実施できないこともあったが、若者が中心となってオンラインイベントのアーカイブやインタビュー動画などデジタルデバイスを使った活動に切り替えて対応。それにより、若者たちがデジタル化社会の中で存在感が高まり、新しい社会を切りひらく主体となる手応えを自他ともに得た。

2 揖斐川流域 山間地の地域循環共生圏 なりわい調査プロジェクト（大学生派遣）

- 期間：2020年4月～2021年3月
- 場所：岐阜県揖斐川町春日美東地区
- 協力団体：NPO法人泉京・垂井、美東地区の皆さん
- 参加者数：2人

◆開催概要

揖斐川流域での地域循環共生圏のあり方を探る調査事業に、未来創造プログラム参加者をインターン生として派遣。そこで得た知見、経験を東海3県や全国ネットで発信し、同じ志を持つ人々、これからの社会を担う若者たちとの共有を進める。

揖斐川町春日・美東地区ヒアリング調査（8～10月）参画コーディネート2名の学生が地域ガバナンス調査に参加。そこでの対話をもとに、次年度「働き方勉強会・研究」を構想した。

調査報告書より抜粋

- *美東に移住したAさん
 - ・もともとの仕事は林業。自然災害や鳥獣被害の諸原因は人間が山の管理を放棄したからで、それを解決したいと思い、林業に就いた。
 - ・現在は何でも屋さんのようなことをしている。土地の整備や何かしらの修理など。
 - ・揖斐川町を初めて訪れた時（15年ほど前？）は、上下水道がなく井戸水で生活していた（現在も*）
 - *美東に移住したBさん
 - ・家周辺の地域は水道の工事を断り、山の水で生活）。電気は昔から通っていた。
 - ・懇親会会場は貸別荘。Aさんと新婚ご夫婦共同で借りている。
 - ・地域の文化をたくさん聞かせてもらっている。地元の若者より詳しいかも。
- Cさんがヨソから来た人なので、おじいちゃんたちも話したがるし、地元の人より面白いと感じられるのかも



ヒアリング調査の様子

【収支】

収入	：	129,053円
支出	：	131,528円

【成果】

2名の学生が地域ガバナンス調査に参加。そこでの対話をもとに、次年度「働き方勉強会・研究」を構想した。

3. 東海市民社会ネットワーク 幹事団体として参画 気候危機勉強会

■期間：2020年6月～2021年1月

■協力団体：東海市民社会ネットワーク、名古屋NGOセンター、中部E SD拠点、可児市国際交流協会 他

■参加者数：8団体へのヒアリング

◆開催概要

東海市民社会ネットワーク（東海3県NGO/NPO連携）幹事会では、市民社会の縦割り構造を解消し、分野横断の協力体制を築くには、防災・減災からのアプローチが有効だと合意している。その方向性の中、今年度は気候危機に関する勉強会の提案を行う予定であったが、助成金が取れなかったことを受け、愛知有志での活動に切り替えた。コンセプトは当初計画と同じであるが、名古屋NGOセンターの提案で、ターゲット層は同じく社会的弱者となりがちな在住外国人とし、技能実習生をはじめとする人権問題に焦点を当て、不公正のない社会を目指す（SDGs 16）活動を開始した。

名古屋NGOセンターの呼びかけで愛知有志グループに参加し、災害時の情報弱者となる在住外国人の課題調査を実施。それにあたり、6月～11月にかけてオンラインで本調査活動を進めるための会議運営、調査サポート等を行った。調査は12月～1月の一か月で8団体にヒアリングを行った。

「コロナ禍の外国人」調査活動報告

第15回中部NGO-JICA中部地域協議会

2021年2月18日

東海市民社会ネットワーク愛知幹事会有志

経緯

- 2020年1月 第14回中部NGO-JICA中部地域協議会の協議で外国人支援2団体が「外国人抱える課題とNGOの取り組み」について発題した。これはJICAが外国人材に関する取り組みを始めることに呼応していた。また東海市民社会ネットワークから2人の幹事が陪席した。
- 2020年2月 地域協議会の今後についてのNGO側会合（9人出席）シンポジウムが提案された。
- 2020年9月 東海市民社会ネットワーク愛知幹事会主催による「外国人の課題と取り組みについての学習会」開催（12人参加）
- 2020年12月 愛知幹事有志で調査活動を実施することになった（愛知幹事会有志と名古屋NGOセンター政策提言委員）

調査活動概要

（目的）

- コロナ禍などで取り残された外国人支援のために
 - 市民の啓発、共感の醸成を促進する。
 - そのために異なる分野のNGO、NPOや行政（JICA含む）との連携によって進める。

（内容）

- 外国人支援、多文化共生を進めている地域（愛知、三重、岐阜）の団体、個人にヒアリングする。
- 外国人の課題に関する学習会（2020年9月実施）で得られた情報を整理し、参加団体に追加のヒアリングをする。

調査活動概要

・質問項目

- コロナ禍の外国人への影響（健康、安全、雇用、生活、教育）を明らかにする。
 - 外国人住民からの相談・問い合わせの内容
 - 課題事例の収集
- 外国人支援団体の取り組み
 - 取り組み内容
 - 行政など他セクターとの連携とNGOの強み
 - JICAへの期待
 - 市民の共感を醸成するための活動内容

【収支】

収入：162,610円

支出：162,610円

【成果】

コロナ禍により計画案を変更し、災害時の情報弱者となる在住外国人の課題調査活動に参画した。約一か月で8団体に調査し、その成果をもとにJICA中部へ協働事業提案を行った。（→2021年度、JICA中部と名古屋NGOセンター、東海市民社会ネットワーク共催のシンポジウム開催が決まった）

4. NPOの資金調達まるわかりセミナー ver.2

- 日時：2020年10月4日（日）
10：00～16：30 ※部分参加可能
- 場所：オンライン開催（ZOOM）
北海道自治労会館（北海道会場）
- 主催：NPO法人エコネット近畿
NPO法人北海道市民環境ネットワーク
NPO法人地域の未来・志援センター
- 協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- 後援：ESD 活動支援センター
北海道地方ESD 活動支援センター
東北地方 ESD 活動支援センター
関東地方 ESD 活動支援センター
中部地方 ESD 活動支援センター
近畿地方 ESD 活動支援センター
中国地方 ESD 活動支援センター
四国地方 ESD 活動支援センター
九州地方 ESD 活動支援センター
- 参加者数：177名（目標数250名）



◆開催概要

エコネット近畿・きたネットとの共同プログラムを地域のNPOに提供。地域の中間支援組織だけではできない全国規模の助成団体を招き、幅広い資金調達方法・ノウハウを学ぶ機会を設けるとともに、地域の団体の実状を助成団体と共有する機会とする。

NPO法人の資金源は「会費」「寄付金」「助成・補助金」「自主事業収入」「借入金」と企業と比較して実に多様である。また、資金源の各々には特徴があり、それらを組み合わせ、いかに持続可能な経営に取り組むかについては、個々の団体の成熟度や目的によっても大きく異なる。

そこで第1部では多様な「資金調達法」の新しい潮流の紹介、第2部、第3部では「助成金申請」に焦点を絞って、自団体にあった「資金調達計画」の立案を目指した。

今年度は、オンラインでのセミナーを開催。

第1部 3つの講座から選べる！ 新しい資金調達の流れと助成金申請書の書き方講座

ZOOM上で3つの会場を用意し、参加者が各自で参加したい講座を選択。資金調達に関する情報の取得や助成金申請書の書き方のコツについて受講した。①「新型コロナ 資金繰り制度」に25名、②「フィールドの遺贈寄付」に30名、③「助成金申請書の書き方講座」に87名、3会場合計142名が参加した。

Room①『新型コロナ 資金繰り支援制度』

≪講師≫特例認定NPO法人Gift理事長 /
須黒税務会計事務所 小山 真由美さん

ファンドレッシング支援や会計相談等、NPOの財務面での持続可能な組織基盤づくりの支援を行う小山さんを招き、NPOも対象となる新型コロナ感染症に関する給付金や補助金について、申請の仕方や申請時の注意事項をご講演いただいた。事例を交えた間違いやすいポイントの丁寧なご説明や、給付金・補助金制度が日々更新しており、最新情報をチェックすることの重要性や、制度変更によって対象外であったものも対象となる可能性があることの説明があった。



Room②『フィールドの遺贈寄付』

≪講師≫フリーランスファンドレイザー
青木 将美さん

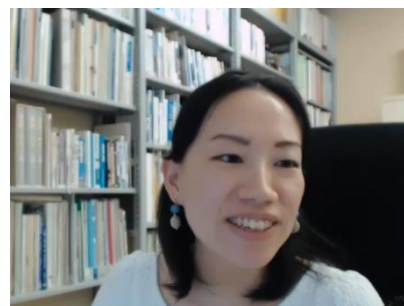
日本財団で遺贈寄付サポートセンターの立ち上げに携わった経験のある青木さんにより、遺贈寄付を行う際の注意事項だけでなく、スムーズな遺贈寄付のために、寄付希望者の目線に立った寄付しやすい環境や仕組みづくりについて必要なこと、寄付希望者や相続人等とのコミュニケーションや寄付者との密な関係づくりの重要性についてご説明いただいた。当日、ZOOMの投票機能を用いてアンケートを実施し、参加者の知識に合わせて、話し方・内容を工夫されていた。



Room③『助成金申請書の書き方講座』

≪講師≫滋賀県立大学 環境政策・計画学科 講師
平山 奈央子さん

外部から活動資金を得て活動していた経験や助成申請書類の審査経験から、助成制度の意味合いや活動資金の種類といった基本から、申請する際に確認することや、審査時のポイント、書き方の工夫についてご講演いただいた。数多くの申請書提出の経験だけでなく、助成金の選考員を務めた経験を踏まえた、申請者と審査員の両方の視点からの書き方のポイントが大好評だった。



第2部 地域限定の助成金制度説明

地域ごとの3つのオンライン会場に分かれ、8つの地域限定の助成金制度について各助成団体の担当者により、助成制度の意図や審査ポイント、昨年度からの変更点などの説明があった。

また、北海道、中部、近畿以外の地域からの参加者など地域限定助成制度の対象外地域からの参加者向けに、資金調達に関する相談会の会場を設け、第1部の講師3人や中間支援組織への相談や質問を受け付けた。北海道会場は21名、中部会場は25名、近畿・瀬戸内会場は40名、資金調達に関する相談会会場は23名で、各会場合計109名が参加した。

Room 北海道



(一財)前田一歩園財団
「自然環境保全活動助成金」
山本 光一さん



(公財)北海道新聞野生生物基金
「北海道新聞野生生物基金助成」
上ヶ島 精一さん



(公財)北海道環境財団
「e-水プロジェクト助成制度」
「ほっくー基金北海道生物多様性保全助成制度」内山 到さん

Room 中部



コミュニティ・ユース・バンク Momo
「NPO融資」
鈴木 雄介さん



(一財)中部圏地域創造ファンド
「東海ろうきんNPO育成助成 / NPOによる協働・連携構築事業」
青木 研輔さん

Room 近畿・瀬戸内



認定NPO法人
瀬戸内オリーブ基金
「ゆたかなふるさと助成」
伴場 一昭さん



阪急阪神ホールディングス 株式会社
「阪急阪神 ゆめ・まち基金」
橋本 恵里香さん

第3部 全国対象の助成金制度説明

7つの助成金制度について各助成団体の担当者により、助成制度の意図や審査ポイント、昨年度からの変更点などについて、資料や動画等を用いて説明があり、合計109名の参加があった。



(公財) コメリ緑育財団
「第31回コメリ緑資金」
河辺 徹さん



(独) 環境再生保全機構
「地球環境基金」
小林 大さん



(公財) 河川財団
「河川基金」
横森 源治さん



(一財) セブン-イレブン記念財団
「2021年度環境市民活動助成」
成田 義孝さん



トヨタ自動車株式会社
「トヨタ環境活動助成プログラム」
兼岩 悦子さん



TOTO株式会社
「TOTO水環境基金」
迫下 勉さん



公益財団法人
「環境保全プロジェクト」
佐藤 孝治さん

第4部 グループ質問会

当日の参加者と、第2部・第3部で制度説明を行った14団体（15の助成金制度）の担当者とのグループ質問会を行った。申請したい事業のある団体や個人から、助成制度についての質問や、事業が対象になるか等の申請される際の疑問点を質問し、担当者から申請書や募集要項では分からない制度詳細について説明を受けた。全国①、全国②、北海道、中部、近畿・瀬戸内の5つの会場に分け、参加者各々が質問をしたい助成団体のいる会場に集まり、質問を行った。また、北海道会場では、直接担当者に相談する個別相談会を実施した。



地域限定の助成金制度担当者への
グループ質問会の様子



SOMPO環境財団担当者への
グループ質問会の様子

【収支】

収入 : 604,356円
支出 : 537,486円

【成果】

初の3団体共催オンライン事業。綿密な打合せを行い、団体としては、オンラインイベント運営における多くのノウハウを培うことができた。また、全国規模のオンラインイベントを成功させたことにより、参加者・助成財団双方から、環境中間支援組織3団体への評価が高まった。そのことが助成財団からの信頼につながり、その後の助成サミット開催にも生かされている。

5.中部流域連携ネットワーク構築支援（川のネットワーク支援）

◆事業内容

気候危機に対応する市民主体の地域づくり、そのための人材育成を目的に、5カ年計画で岐阜・愛知・三重・三遠南信（静岡西部と長野南部）の流域ネットワーク構築をサポート。1年目の2020年度は、全国の川づくり団体が集結する「いい川・いい川づくりワークショップ」を岐阜市で開催する計画であったがコロナ禍により、やむなく次年度へ延期することとなった。そのため今年度は、5県の関係者に呼びかけ、『中部流域連携ネットワーク』を実質的なものとすることに注力。オンライン実行委員会方式で話し合いを重ね、代替案である12月26、27日に『ゆく川 くる川 川談義』（オンラインイベント）を開催した。

■行事名

オンライン特別企画『ゆく川 くる川 川談義』

～いい川・いい川づくりワークショップin中部 2021年本開催に向けて～

■準備 実行委員会を重ね、一つのものを創り上げる過程を共有することでメンバー同士の信頼感を醸成

月日	メンバー	内容
2月9日	第1回実行委員会	8/7,8開催予定の「いい川W s in中部」へ向け、実行委員会を立ち上げ。
4月18日	第2回実行委員会	コロナ禍が深刻となり、予定通り開催するか否かを協議。今年度の開催は見送り、来年度開催を目指すことに決定。代替案についても話し合いを開始。
5月28日	第3回実行委員会	2020年度は、5県の主要団体の連携を深めるため、中部独自のオンライン企画を行う方向性で話し合う。
6月10日	事務局会議	若手中心に企画会議
6月27日	第4回実行委員会	オンライン企画の内容について話し合う。趣意書作成開始。
7月3日	事務局会議	若手中心に、企画の詳細を詰めていく。
9月6日	第5回実行委員会	スケジュールの見直し、12月26・27日開催に決定。メインスタジオについて協議。
9月27日	第6回実行委員会	メインスタジオ決定（Sharebase『コワーキングスペース』）。役割分担話し合い。
10月18日	第7回実行委員会	企画概要と役割分担を決め、プログラム毎の詳細や運営方法の詰めを担当ごとに行うことになった。発表団体の推薦について協議。
		募集要項作成、後援申請業務
11月15日	第8回実行委員会	プログラム毎の進捗報告。メイン企画：座談会のコーディネーター選出。発表団体のエントリー状況確認
12月5日	第9回実行委員会	座談会内容の最終協議
12月17日	「お便りコーナー」MTG	コーナーの担当者で、お便り紹介方法、突撃電話の方法等について最終打合せ。
12月18日	「活動発表」MTG	全国から寄せられた17団体の動画や発表資料を4つのテーマで紹介。各コメンテーターがどのような視点で紹介するかなどをすりあわせ。
12月中旬	「ゆく川座談会」MTG	座談会の趣旨確認、各登壇者の発表内容について、メールでやり取り。
12月22日	「くる川座談会」MTG	「つなぐ」をキーワードにこれからの30年の話をするということで、2時間の流れを確認するためのうちあわせ。
12月24日	第10回実行委員会	本番前の運営を中心とした確認ミーティング。

■開催概要

日時 2020年12月26日（土）15：00～21：00、12月27日（日）8：00～12：30
場所 オンライン開催 YouTube、ZOOMウェビナーにて配信
メインスタジオ：「Sharebase」コワーキングスペース
（名古屋市中区錦1-15-8 アミティエ錦第一ビル6F）
主催 中部流域連携ネットワーク（いい川・いい川づくりワークショップin中部2020実行委員会）
共催 いい川・いい川づくり実行委員会、愛知・川の会（愛知）、川づくり会議みえ、NPO法人天竜川ゆめ会議（長野）、22世紀奈佐の浜プロジェクト実行委員会（愛知、岐阜、三重）
後援 国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県
協力 しずおか川自慢大賞
助成 公益財団法人 河川財団 河川基金

■参加者数

閲覧者数：約1000名 常時視聴者：60名程度

◆Youtube視聴者数 1日目：710回、2日目：395回

◆zoom視聴者数（パネリスト除く） 1日目：56人、2日目：44人 合計ユーザー数：1日目
192人、2日目 124人

■当日の様子 1日目 2020年12月26日（土）15：00～21：00

○開会式

- ・開会挨拶
- いい川・いい川づくりワークショップin中部 実行委員長 名畑 恵
- ・中部流域連携ネットワークについて
- 中部流域連携ネットワーク代表理事 近藤 朗
- ・今回のプログラム紹介
- いい川・いい川づくりワークショップin中部 副実行委員長 中村 晋一郎



○中部・全国の川から活動発表

中部地域や全国で活動している17団体の取り組み発表。

コーディネーター：朴 恵淑（三重大学名誉教授） 進行：堺 かなえ（NPO法人全国水環境交流会）

セッションA【水辺の子ども】

元気な子どもたちの発表や生き物いっぱいの映像が届きました！

コメンテーター

佐藤 純一郎（しずおか川自慢大賞実行委員会）
峯 和也（魚と子どものネットワーク）

発表団体

1. 長野放送天竜川調査隊（長野県）
2. みずがき倶楽部（静岡県）
3. 観音崎自然博物館（神奈川県）
4. トンボはどこまで飛ぶかフォーラム（神奈川県）
5. 筑後川まると博物館（福岡県）



セッションB【水の文化の創造】

川とのいろんなつながり方、遊んだり、食べたり、動画で発信したり。

コメンテーター

福澤 浩（NPO法人天竜川ゆめ会議）
川瀬 功記（愛知県河川課）

発表団体

6. NPO法人ORGAN（岐阜県）
7. 昆虫食倶楽部（静岡県）
8. 「四ツ谷の水を街並みに！」市民の会（宮城県）
9. かわたびほっかいどう（北海道）



セッションC【快適な水辺空間の創出】

行政や学校と市民の連携、現地からの中継、筏やがってん丸、都会での河川での取り組みなど、様々な地域から報告が寄せられました。

コメンテーター

秀島栄三（名古屋工業大学）

小口智徳（下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会（湖浄連））

発表団体

- 1 0. 豊田市矢作川研究所（愛知県） 1 1. 巴川ボラーズ（静岡県）
- 1 2. NPO法人新潟水辺の会（新潟県）
- 1 3. 善福寺川を里川にカエル会（東京都）



セッションD【多様な連携】

ベテランから子どもまで多くの市民を巻き込んだ取り組み、動画、川のゴミを何とかするための全国的な取り組み、高校生ががんばっている取り組みなど、多様な連携による発表が届けられました。

コメンテーター

八木宏晃（しずおか川自慢大賞実行委員会）

見屋井一輝（22世紀奈佐の浜プロジェクト（岐阜県））

発表団体

- 1 4. 矢作川流域圏懇談会（愛知県）
- 1 5. 諏訪湖創生ビジョン推進会議（長野県）
- 1 6. 全国川ごみネットワーク（全国） 1 7. 十勝川中流部市民協働会議（北海道）



〇おたよりコーナー



- ①これまでSNS等に寄せられたコメント FacebookやTwitterに寄せられたコメントを紹介
- ②全国から届いたおたより読み上げ。『今年どんな川活動をした？』『来年どんな川づくり活動したい？』
- ③全国川電話『テーマ：今年の川で頑張ったこと』

〇「ゆく川」座談会



多自然（型）川づくりをはじめて30年が経過。これまでのいい川づくりを官・民・学それぞれの立場で振り返った。

【テーマ】

- ①川づくり30年をふりかえる
- ②多自然川づくりの果たしてきた役割
- ③30年の中で見えてきた未来に向けた課題

コーディネーター

森 誠一（岐阜協立大学 教授）

パネリスト

- 福永 泰久（川の外科医）、
- 原田 守啓（岐阜大学 地球環境変動適応研究センター長）
- 福澤 浩（天竜川ゆめ会議 代表理事）、
- 近藤 朗（中部流域連携ネットワーク 代表理事 / 愛知・川の会 事務局長）
- 中村 圭吾（土木研究所 自然共生研究センター長）
- 川村 昭彦（中部地方整備局 河川環境課 課長補佐）

〇大忘年会

オンライン上で全国の団体との交流を行った。

□ 2 日 目 2020年12月27日（日）8：00～12：00

○川の上からおはよう

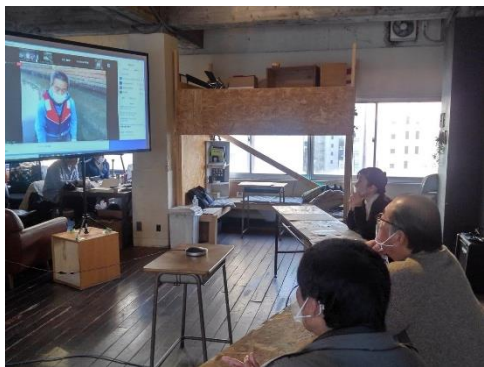
各地の水辺から朝の水辺中継。

①長野県の諏訪湖から。冬の朝の幻想的な諏訪湖と八ヶ岳を背景に下諏訪町木遣保存会による木遣唄を聴こう！

②名古屋堀川の水辺から。SUPに乗って近くのカフェまでモーニングを食べに行く。

モーニングキャスター 三ツ松由有子（NPO法人地域の未来・志援センター）

コメンテーター 近藤 朗（愛知・川の会）、福澤 浩（NPO法人天竜川ゆめ会議）



○ようこそ！素晴らしい川の世界へ！



鈴鹿川探検隊からのメッセージ

ナビゲーター

新玉拓也（魚と子どものネットワーク）

峯 和也（魚と子どものネットワーク）

リポーター

魚と子どもKidsクラブメンバー



延藤文庫の絵本たち 絵本往復書簡 水のつながり

コミュニケーター

名畑 恵（NPO法人まちの縁側育くみ隊 / 錦二丁目エリア）

読者

森田 紘圭（錦二丁目エリアマネジメント株式会社）

谷崎 仁美（なたね通信/自然観察指導員三重連絡会/四日市ウミガメ保存会）

椿原 誉樹（住友商事）

○「くる川」座談会

これからの川づくりに必要な人づくりにはどんな視点が重要か。

前日の「ゆく川」の議論を踏まえ、「つなぐ」をキーワードに『これからの30年』をテーマに川談義を行った。



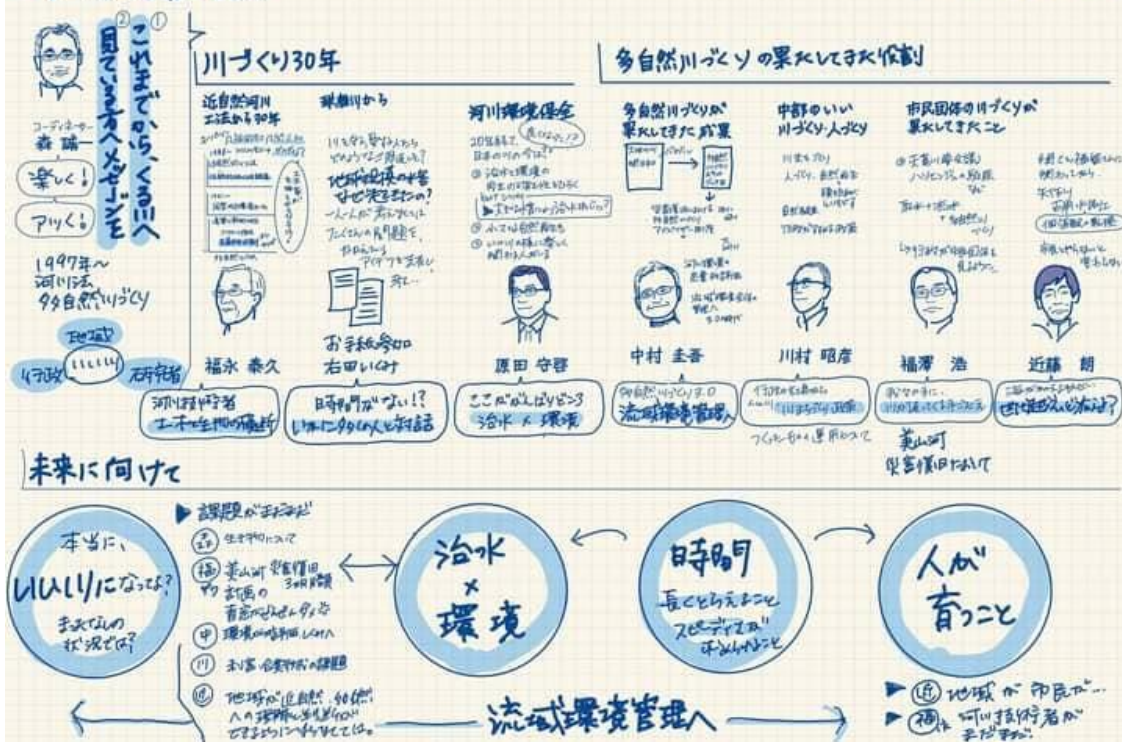
「ゆく川」メッセンジャー 森 誠一（岐阜協立大学）

パネリスト 堺 かなえ（NPO法人全国水環境交流会）新玉 拓也（魚と子どものネットワーク）瀬川 貴之（〈一社〉Clear Water Project）平野 智也（22世紀奈佐の浜プロジェクト）一伊達 哲（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課/淡海の川づくりフォーラム）望月 嘉徳（しずおか川自慢大賞実行委員会）清水 雅子（中部流域連携ネットワーク/愛知・川の会）坂本貴啓（土木研究所自然共生研究センター）

○閉会式（次回開催地 ホストタウンぎふより）

「ゆく川」座談会

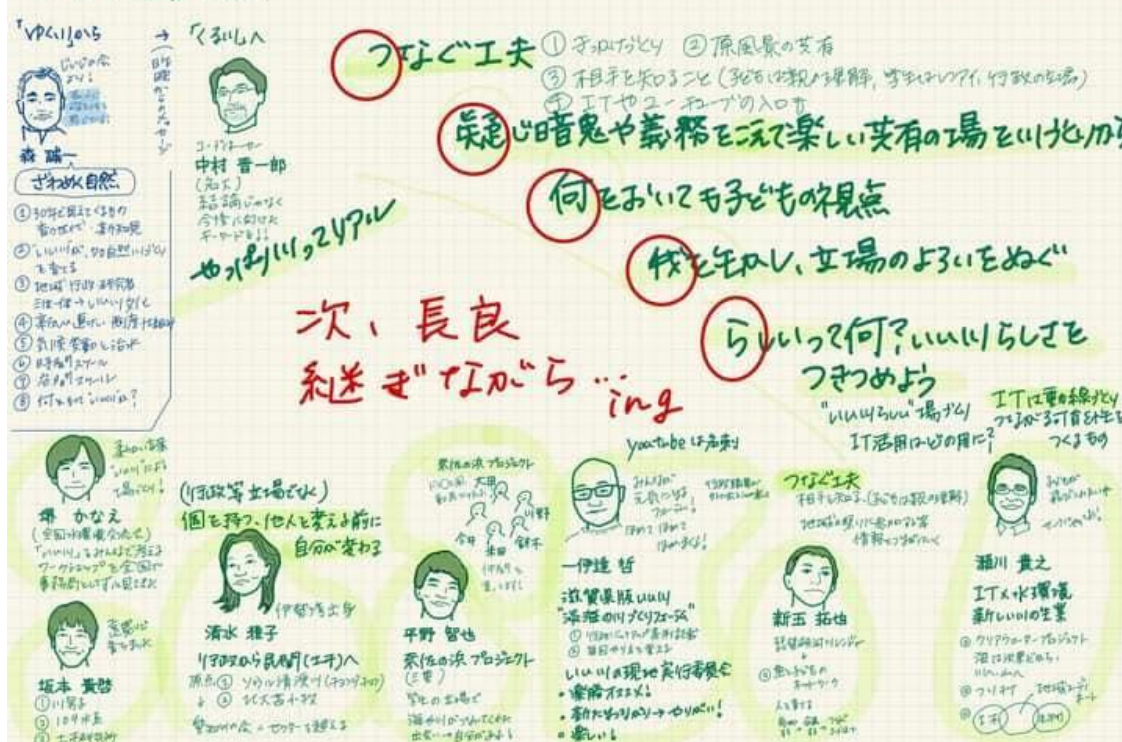
12/26 19:00-21:00



1日目
ゆく川談義
グラフィックレコーディング

「くる川」座談会

12/27 10:00-12:00



2日目
くる川談義
グラフィックレコーディング

■アーカイブ (YouTube)

<https://youtu.be/KH66vIrqePo>

(1日目 12月26日)

<https://youtu.be/hjSNJxILtPs>

(2日目 12月27日)

【収支】

収入 : 376,444円
支出 : 331,574円

6.海のネットワーク支援

- 期間：2020年9月～2021年3月
- 場所：愛知県田原市赤羽根地区
- 協力団体：あかばね塾
- 参加者数：約20人

◆事業概要

漂着ゴミ問題や海の環境保全の行き詰まり等の課題を共有する渥美半島、答志島、佐久島の交流を支援する。渥美+2島の地域活性化に取り組む人々の出会いの場、情報・経験交流の場を設け、次年度に実施予定の『里海会議 in 佐久島（仮称）』へ向け、伊勢・三河湾の海側のネットワークを呼びかける。

コロナ禍により里海会議は実施せず、フィールド予定地でのヒアリングを行った。



【収支】

収入：210,440円
支出：221,577円

【成果】

渥美半島の聞き書きを3回実施。80代以上の高齢者が体験した地域伝統の暮らしを30～60代が知る機会を作った。

7. 山のネットワーク支援【エコネット近畿との共同事業】

◆事業概要

地域住民主体のNPO的組織が中心となって《コモンズ》を運営する手法を確立していくことで、環境が保全され、地域の「なりわい」がつくられ、地域循環共生圏が形成される、という仮定のもと、新しい経済をつくる最新動向を学ぶ勉強会を実施。中部と近畿の間で中山間地のなりわいづくりに関する研究を進め、連携して地域活性化のコーディネーター育成、サポート体制づくりを行う計画を策定した。

■意見交換を主眼とした勉強会・意見交換会（エコ・カフェ）をオンラインで実施した。

日時	話題提供者	内容	参加者
2020年 8月11日(火) 18:00～	谷 茂則さん 谷林業株式会社 代表取締役社長 奈良県	奈良県南部の吉野郡内にスギ・ヒノキの人工林を持ち、まちで木を使う人が増える仕組みづくりを仕掛けている谷林業の谷さんを招いての勉強会。	澤秀俊さん（澤秀俊設計環境sawadee、岐阜県）、唐沢晋平さん（奏林舎、愛知県）、伊藤翔汰さん（合同会社L O M、岐阜県）、大西康史さん（合同会社フォレストエネルギー新城、愛知県）海野香織さん（NPO法人泉京・垂井、岐阜県）平野智也さん（学生、新潟県）、奈賀大樹さん（エコネット近畿インターン）他
2021年 1月21日(木) 19:00～		学童・保育所の木造化など木材の利用や木を利用した地域づくりに関する意見交換。	谷茂則さん（大和森林管理協会）、伊藤立平さん（伊藤立平建築設計事務所）、野口貴士さん（奈良県奈良の木ブランド課）、北直紀さん（下北山村役場製材所担当）、中野明彦さん（奈良県学童保育連絡協議会）、鈴木建一さん（森と子ども未来会議）、唐沢晋平さん（奏林舎）他
2021年 1月25日(月) 19:00～	麻生翼さん NPO法人森と生活 代表	北海道下川町で行われている循環型森林経営とゼロエミッションの木材加工、森とイエプロジェクト、「一の橋バイオブリッジ」などを学ぶ。	

■2021年1月21日に実施した第3回勉強会の様子



【収支】

収入 : 278,613円
支出 : 279,393円

【成果】

勉強会を5回実施、参加者数は1回目10名、2回目10名、3回目は9人、4回目12名、5回目5名（5回のみ対面）。森と子ども未来会議、奈良・大和森林管理協会、岡山・はにわの森、エコネット近畿との連携が生まれ、エコネット近畿情報交流会の企画・運営協力を行った。その過程を通して、2021年度事業へとつなげた。

8 センタースタッフスキルアップ支援 『東海地区市民活動センタースタッフ交流会』

◆事業概要

地域の自治力向上を担うNPOセンタースタッフのスキルアップを支援するため、日頃の業務に役立つ情報交換や経験交流を行うための勉強会兼交流会『東海地区市民活動センタースタッフ交流会』を開催。コロナ禍の今年度はオンライン・リアルハイブリッド方式で、下記のようなNPOセンタースタッフの取材・原稿作成力向上をテーマに実施した。

第9回東海地区市民活動センタースタッフ交流会」概要

■期間

2020年12月2日（水）19：00～21：00

■場所

名古屋市市民活動推進センターおよびオンライン（zoom）

■参加者数

18名（対面参加者3名、オンライン参加者15名）

■目的

- ①市民社会活性化を目指し、NPO間の分断・縦割りを緩和する
- ②全国ネットワークに参加する地域の間支援関係者を増やす

■内容

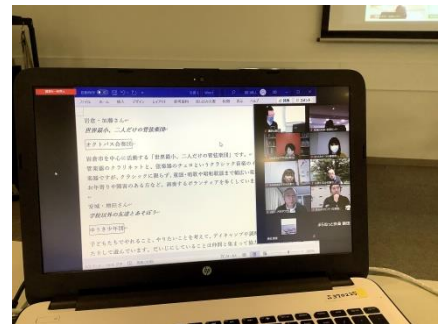
テーマ：センターの情報誌に、読みたくなる団体紹介を載せ、活動内容が読み手に伝わるような記事を書くコツを学ぶ

講師：関口威人氏（フリージャーナリスト、一般社団法人なごやメディア研究会 代表理事）

■プログラム

- ① 開会のあいさつ・趣旨説明
- ② 読みたくなる団体紹介記事の書き方のコツ
- ③ 交流タイム(感想共有、情報交換)
- ④ 講師よりアドバイス
- ⑤ 閉会のあいさつ

第9回東海地区市民活動センタースタッフ交流会の様子



【収支】

収入：171,110円

支出：176,317円

【成果】

オンライン参加を可としたことで、参加のハードルが下がり、予想以上の参加者を得ることができた。（18名中、対面参加3名、オンライン参加15名）。開催後、刈谷市のボランティアネットワークセンター参加者より、同様の勉強会を実施したいとの照会があり、刈谷市でも3月に同企画が実施された。

9 自団体・関連団体の収益強化

■期間：通年

◆事業概要

協働する団体は泉京・垂井。SDGs の理念である環境・社会・経済3側面のバランスがとれた持続可能な地域づくりを行うための提言や計画づくり、住民の理解を進めるワークショップ等の実現を目指した。協議の途中、まちづくりスポットもこの動きに注目し、対象地域を高山市丹生川地区として、まちづくりスポットと当団体がコーディネート役を担って地域のニーズを探り、次年度、そのニーズにこたえるツールを3団体協働で作成する事業へと発展させた。

■活動内容

月日	メンバー	内容
7月4日	・地域の未来 竹内、三ツ松 ・泉京・垂井 神田氏	●事業のコンセプトづくり コモンズの維持・管理をテーマに持続可能な地域づくりに関する調査（ヒアリング）を行うことを決める。対象地域は高山市の中山間地域。②のなりわい調査事業との相乗効果を狙う。
7～8月上旬	・地域の未来 竹内、三ツ松	●調査先選定：7月の豪雨災害で孤立寸前となった高山市丹生川地区に照準を定め、当該地域のリーダーにヒアリング依頼。
8月21日	・丹生川日影地区町内 牧上氏 ・地域の未来 竹内、三ツ松	●第1回ヒアリング 丹生川・日影地区町内会長を務め、長年「ふるさと福祉村」事業をけん引してきた牧上氏に地域の状況についてヒアリングを行う。
10月26日、 27日	・まちづくりスポット 本間氏 ・泉京・垂井 神田氏、鉄井氏 ・地域の未来 竹内、三ツ松	●第2回ヒアリング 日影地区の山林、2020年7月豪雨災害の復旧状況等の視察および地域役職者へのヒアリング。また高山市役所にて高山市役所企画課部長にSDGsの取り組みについて、協働推進課課長にはまちづくり協議会に対する考え方についてヒアリングを実施した。
2021年 1月28日	・地域の未来 竹内、三ツ松、河合 ・泉京・垂井 神田氏、鉄井氏、 和田氏	●事務局ミーティング 今後の事業の進め方について話し合った。
2021年 2月18日	・地域の未来 竹内、三ツ松、河合 ・泉京・垂井 神田氏、鉄井氏、 和田氏	●事務局ミーティング 今後の事業の進め方について話し合った。

<8月21日のヒアリングより>

牧上さんのヒアリングにより、丹生川の中でも日影地区と隣の白井地区（併せて26世帯）では、地域に残る（戻ってくる）若者が多いことが分かった。その背景には、牧上さんが関わってきた「ふるさと福祉村」事業による地域住民の連帯感の強さがあると考えられるが、その他、もともとの地域性や地元での仕事状況などを調べ、何が若者を地域に引き付けているのかを調べることにした。



日影集落視察の様子



地域役職者へのヒアリング

【収支】

収入	：	245,220円
支出	：	274,466円

【成 果】

協働団体と現地ヒアリングを3回実施。調査対象地域住民との交流、高山市行政とローカルSDG s 理念での地域づくりについて意見交換、提案を行った。その結果、2021年度曼荼羅づくり調査という収益化をめざす新規事業が生まれた。

10. 広報活動と市民社会の基盤強化

■情報発信

【内容】メールニュースの発行とSNSやウェブサイトで情報を加盟団体や関係団体の情報を発信した。

中間支援組織間の連携により、3県の催事・研修会等の日程の共有を進める

◆情報発信目標

実施項目	メールニュースの発信	HPの更新	成果評価指標	メール配信先数	FBいいね！数
目標	年間24回	月2回／年間24回	目標	900件	1000
実績	20回	20回	実績	687件	944

■助成サミット（『全国市民連携環境ミーティング』）

【内容】きたネット、エコネット近畿と連携『全国市民連携環境ミーティング』

全国の中間支援に呼びかけ、市民社会の活性化について情報交換、話し合いを行う

日にち	参加団体	内容
9月2日	10団体 24名	『コロナ禍で行った採択団体とのコミュニケーション』 講師：コスモ石油エコカード基金事務局 江崎礼子氏 コロナによる採択団体の活動への影響を把握するために、コスモ石油エコカード基金が行った状況把握の方法と対応についてお話いただいた。
12月8日	6団体 9名 オブザーブ参加1名	『COVID-19の影響に、助成制度はどう応えるか』 講師：IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 川北 秀人氏 コロナ禍での活動団体や助成金の動向を見ながら、今後求められる助成制度について、お話しいただいた。
2021年 3月16日	6団体 9名	『環境市民活動の次なる成長、社会変革力向上のための助成制度とは』 講師認定NPO法人シーズ 代表理事 関口 宏聡氏 ポストコロナ時代を見据え、環境市民活動の次なる成長や社会変革力向上を後押しする助成制度を考えるため、ブレインストーミング的話し合いを行った。

■中間支援団体に必要な技術を得るための勉強会

【内容】エコネット近畿と連携し、他地域の事例や地域経済循環分析に関する勉強会の実施。

日にち	講師	内容
2021年 2月12日	神田浩史氏 泉京・垂井	奈良県上牧町の地域経済循環分析の読み方や、その地域の動向などを学んだ。
2021年 2月17日	神田浩史氏 泉京・垂井	奈良県下北山村の地域経済循環分析の読み方や、その地域の動向などを学んだ。
2021年 2月18日	富田夏子氏 EPO中部	長野県飯山市の「里山ウェルネス研究会」を中心に実施され、2018年度環境省事業に採用された林福連携事業のヒアリング。

【収支】

収入 : 393,557円
支出 : 533,557円

セブン-イレブン記念財団運営助成
人件費、アルバイト代、通信費、広報、旅費交通費等

11 豊森なりわい塾サポート

■期間：2020年4月～2021年3月

■場所：オンライン

■参加人数 第1回45人、第2回29人、第3回24人、第4回24人、第5回250人

◆事業概要

2009年～2018年の10年間、事務局として運営主体を担ってきた「豊森なりわい塾」。昨年度より本事業の運営は(一社)おいでん・さんそんに移行したため、当団体は新運営体制のサポートを行った。

【実施内容】

豊森なりわい塾は、新型コロナウイルス感染症対策のため実施はできなかったが、その代わりに全5回の豊森サロンをオンラインで開催した。実施内容は以下の通り。

	日にち	テーマ	講師
第1回	2020/6/20	with/afterコロナの新しい生き方のヒントを探る！	渋澤寿一さん 駒宮博男さん 鈴木センター長
第2回	2020/9/11	コロナ時代から「愛と自給を考える」	駒宮博男さん
第3回	2020/9/20	いま、つれづれに思うこと ～渋澤さんのお話	渋澤寿一さん
第4回	2020/12/16	コロナ禍の豊森的受け止め方 ～不安をこえて	松井良幸さん 榊原礼美さん 駒宮博男さん
第5回	2021/2/17	フィンランドの文化と教育から考えるwell-being	坂根シルックさん 渋澤寿一さん



【収支】

収入：500,000円

支出：3,340,499円

3. 総会および理事会・運営会議の開催

1. 第16回通常総会

- 【実施日時】 2020年7月23日(木・祝) 16:00～17:00
- 【実施場所】 オンライン開催
- 【審議事項】 第1号議案 2019年度事業報告について
第2号議案 2019年度収支決算について
第3号議案 2020年度事業計画について
第4号議案 2020年度活動予算について
第5号議案 役員の選任について

2. 2020年度理事会

❖第96回定例理事会

- 【実施日時】 2020年6月23日(火) 10:00～12:00
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 6人
- 【内 容】 総会について

❖第97回定例理事会

- 【実施日時】 2020年7月23日(木・祝) 17:00～17:30
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 7人
- 【内 容】 今年度の運営及び新型コロナウイルス禍における活動の在り方について

❖第98回定例理事会

- 【実施日時】 2020年9月25日(火) 15:00～17:00
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 5人(委任状1名)
- 【内 容】 2021・2022年度 セブニーイレブン記念財団申請について

❖第99回定例理事会

- 【実施日時】 2020年11月19日(木) 10:00～11:30
- 【実施場所】 オンライン
- 【出席者数】 8人(委任状1名)
- 【内 容】 2021・2022年度 セブニーイレブン記念財団申請について

❖第100回定例理事会

- 【実施日時】 2020年3月31日(水) 14:00～15:40
- 【実施場所】 ZOOM（オンライン会議）
- 【出席者数】 8人
- 【内 容】 2021・2022年度 セブソーイレブン記念財団申請について

特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター
2020年度 事業報告

以上

人材発掘・育成のしくみづくりにともに取り組むネットワーク

地域	組織名
岐阜	西濃環境NPOネットワーク
愛知	渥美半島環境活動協議会
三重	いなべの里山を守る会
岐阜	NPO法人いびがわミズみずエコステーション
愛知	あかばね塾
愛知	認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会
岐阜	NPO法人泉京・垂井
愛知	環境ボランティアサークル亀の子隊
愛知・岐阜・三重	22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
岐阜	NPO法人森と水辺の技術研究会
愛知	愛知・川の会
三重	NPO法人四日市ウミガメ保存会
愛知・岐阜・三重	東海市民社会ネットワーク
愛知・岐阜・三重	認定NPO法人名古屋NGOセンター
愛知・岐阜・三重	東大手の会
愛知	一般社団法人奏林舎
三重	魚と子どものネットワーク
三重	四日市公害と環境未来館
岐阜	認定NPO法人まちづくりスポット
愛知	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会
愛知・岐阜	森と子ども未来会議
愛知・岐阜	NPO土岐川・庄内川サポートセンター
三重	NPO法人市民社会研究所
三重	チベット友の会
岐阜	NPO法人ぎふNPOセンター
愛知	こどもフォーラム
愛知	不戦へのネットワーク
愛知・岐阜・三重	中部ESD拠点
愛知	アジア保健研修所
三重	NPO法人みえNPOネットワークセンター
愛知・岐阜・三重	一般社団法人 SDGsコミュニティ
愛知・岐阜・三重	環境省 中部環境パートナーシップオフィス
北海道	NPO法人北海道市民環境ネットワーク（きたネット）
近畿地方	NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）
全国	NPO法人全国水環境交流会

